

第199回山梨大学医学会例会

日時：令和5年3月22日（水）午後4時10分～5時10分

会場：管理棟3階大会議室

特任教授就任講演**2足の草鞋が考える遺伝医療の来今
～こころの遺伝子とともに～**

石黒 浩毅

山梨大学医学部臨床遺伝学

司会 平田 修司教授

【要旨】

私に与えられた医師・医学者としてのタスクとは、「人が生を受ける時から死を迎えるまで、その人を理解することに努め、その人らしい人生を送れるように支援すること」と考えています。精神専門医および臨床遺伝専門医として、遺伝医療、精神科医療、がんゲノムとがん支援、緩和ケアを包括できる機会と環境を頂いた本学に感謝をしております。

研究者として私は精神科医となると決めた時から、こころを遺伝子で説明できる時代を作ろうと考えてきました。主な研究成果は、統合失調症・うつ病におけるカンナビノイド CNR2 遺伝子の役割、および物質依存形成における神経接着因子 NRCAM 遺伝子の作用の発見です。それらの遺伝子改変動物では Naïve な条件にて精神疾患的表現型がなく、薬物や免疫、心理ストレス負荷モデルにて特異な行動特性を示します。これまでも幾つかの国内大規模ゲノムコホート研究に従事してきましたが、現在は日米共同研究である「精神疾患ゲノム研究国際コンソーシアム」の分担研究者として統合失調症のエクソーム解析を終了し、遺伝子バリエーションによる疾患表現型の詳細解析を行うところとなっています。今後も精神疾患関連遺伝子の解明を進めて、予防医学と新規治療法開発に寄与したいと考えています。

臨床系講座としては附属病院遺伝子疾患診療センターにて、従来からの遺伝性疾患の小児期医療、生命予後の改善に伴う成人期医療、精神疾患を含む多因子疾患の遺伝医療、遺伝性腫瘍患者のサーベイランスなど複数診療科間のハブ医療の構築を行います。基礎から臨床への橋渡しと言われてきた遺伝医学が、皆様の診療を支える土台となる時が来たと感じています。遺伝医療のアップデートを継続し、本学の学生・職員および地域医療者への教育活動にも邁進していく所存です。遺伝医療の普及にはすべての診療科と連携が大切と考えておりますので、ご高配とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。